

# 調剤内規

(2024年12月 第10版)

(2026年1月 第10版誤記修正)

八尾市立病院 薬剂科

## — 目次 —

調剤運用 .....	3
処方箋区分と出力物	3
出力物の記載事項	3
処方鑑査	4
錠剤・カプセル剤 .....	5
基本的原則	5
計数調剤例	6
一包化調剤例	8
散剤 .....	9
基本的原則	9
散剤調剤例	10
水剤 .....	11
基本的原則	11
投薬瓶の選択方法	12
水剤調剤例	13
その他特殊な水剤の調剤	15
外用剤 .....	16
基本的原則	17
外用調剤例	17
その他特殊な外用剤の調剤	18

## 調剤運用

### 処方箋区分と出力物

<外来>

処方箋区分	処方箋	薬袋 (ラベル)	薬品情報紙	手帳用ラベル	その他
院外	なし	なし	なし	なし	調剤機器へデータを送信しない
院内	本箋	あり	あり	あり	
外来済み	本箋	なし	なし	なし	調剤機器へデータを送信しない

<入院>

処方箋区分	処方箋	薬袋 (ラベル)	薬品情報紙	手帳用ラベル	その他
定期	本箋	あり	あり	なし	
臨時	本箋	あり	なし	なし	
つなぎ	本箋	あり	あり	なし	
緊急	本箋	あり	なし	なし	
退院	本箋	あり	あり	あり	
入院済み	本箋	なし	なし	なし	調剤機器へデータを送信しない
中止	本箋	なし	なし	なし	調剤機器へデータを送信しない

### 出力物の記載事項

	単独項目	共通項目
処方箋	年齢・医師名・性別・処方内容・調剤内容・血液検査歴・Ccr・アレルギー歴	診療科・病棟名・処方区分・処方番号・オーダ番号・患者氏名・患者 ID・用法用量・投薬日数・オーダコメント・薬品名・調剤日・服用開始日・病院名
薬袋	枚数表示・病院住所など・注意書き	
ラベル	年齢	
手帳用ラベル	お薬手帳用表記	診療科・病棟名・患者氏名・患者 ID・用法用量・投薬日数・オーダコメント・薬品名・調剤日・病院名
薬品情報紙 (入院定期)	製剤写真・使用上の注意書き	患者氏名・患者 ID・性別・診療科・出力日・枚数表示・薬品名・用法用量・投薬日数・薬効
薬品情報紙 (外来)	製剤見本・引換券 No・副作用	

## 処方鑑査

散剤及び水剤を調剤する際は、調剤鑑査システム（散剤用）及び水剤鑑査システム（水剤用）を使用する。  
また、システムの詳細についてはそれぞれの取り扱い説明書を参照すること。

# 錠剤・カプセル剤

## 基本的原則

### (1) 処方箋区分と調剤方法

外来（入院患者の退院処方含む）	入院（定期・臨時・緊急）
頓服薬を含め、基本的にヒート調剤とする。但し、オーダより一包化指示された場合は一包化調剤とする。	頓服薬を含め、基本的に一包化調剤とする（処方毎もしくは服用時間毎）。但し、オーダより一包化指示がない場合はヒート調剤とする。

### (2) 優先剤形

原則として、剤形は処方箋に記載されている剤形どおり調剤する。但し剤形の指示がない場合で、錠剤やカプセル剤の含有量で割り切れる場合は、錠剤やカプセル剤を最優先して調剤する。

### (3) 調剤単位

処方毎に調剤し、一回服用量・用法・投薬日数のいずれかが異なるものは薬袋を別に発行する（散剤が同一処方処方に処方されている場合を含む）。

### (4) 単独調剤

薬品マスターに単独処理の指定を受けた薬剤については、単独調剤を行い薬袋は別に発行する。

### (5) 服用方法に条件がつく場合

隔日投与、服用日指示などオーダ指示によりフリーコメント入力のある場合、薬袋にフリーコメント内容が記載されていることを確認する。

### (6) バラ錠及び半錠の取り扱い

バラ錠及び半錠はすべて分包して調剤する。

### (7) 調剤添付物

内服薬の使用説明書などは外来処方及び退院処方の場合に限り、調剤時に添付する。

なお、薬剤使用説明書を添付する医薬品には、処方箋表示医薬品名の前に「●」が付与されている。

→薬剤使用説明書リスト参照

処方内容	調剤内容
バイアスピリン錠 100mg 1錠	●バイアスピリン錠 100mg 1錠
【3.75】エフィエント錠 3.75mg 1錠	【3.75】●エフィエント錠 3.75mg 1錠
タケキャブ錠 10mg 1錠	【10】タケキャブ錠 10mg 1錠
ロスバスタチン OD 錠 5mg 「DSEP」 1錠	【5】ロスバスタチン OD 錠 5mg 1錠
30日分	「DSEP」 30日分
【朝食後すぐ】	【朝食後すぐ】

## 計数調剤例

### (1) 錠剤（カプセル剤）が一種類の場合

薬袋に薬剤を総数入れ、薬袋の記載事項を確認する。

①レバミピド錠	3錠
【毎食後すぐ】	14日分
②テプレノンカプセル	3カプセル
【毎食後すぐ】	14日分

<薬袋表現>

- ①1回に錠剤1錠お飲みください。
- ②1回にカプセル1個お飲みください。

### (2) 錠剤（カプセル剤）が二種類以上の場合

★一回服用量・用法・投薬日数が同じ場合★

同一薬袋に全ての薬剤の総数を入れ、薬袋の記載事項を確認する（種類数も記載される）。

①メリスロン錠 6mg	3錠
メチコバル錠 500 $\mu$ g	3錠
【毎食後すぐ】	7日分
②トランサミンカプセル	2カプセル
テプレノンカプセル	2カプセル
【朝夕食後すぐ】	7日分
③メチコバル錠 500 $\mu$ g	3錠
テプレノンカプセル	3カプセル
【毎食後すぐ】	7日分

<薬袋表現>

- ①1回に錠剤各1錠お飲みください（2種類）。
- ②1回にカプセル各1個お飲みください（2種類）。
- ③1回に錠剤1錠、カプセル1個お飲みください。

★一回服用量・用法・投薬日数のいずれかが異なる場合★

薬袋を複数枚発行し、一回服用量・用法・投薬日数が同じ薬剤のみ同一薬袋に総数を入れる。また、薬袋の記載事項を確認する（種類数も記載される）。

①カルボシステイン錠 250mg	6錠
アストミン錠	6錠
ムコサル錠	3錠
【毎食後すぐ】	5日分
②アルタットカプセル	2カプセル
【朝夕食後すぐ】	7日分
ドグマチールカプセル	3カプセル
【毎食後すぐ】	7日分
③アダラートCR錠 20mg	1錠
【朝食後すぐ】	7日分
テノーミン錠 50	1錠
【朝食後すぐ】	14日分

<薬袋表現>

- ①1回に錠剤各2錠お飲みください。（2種類）  
（カルボシステイン・アストミン用）  
1回に錠剤1錠お飲みください。（ムコサル用）
- ②1回にカプセル1個お飲みください。（アルタット用）  
1回にカプセル1個お飲みください。（ドグマチール用）
- ③1回に錠剤1錠お飲みください。（アダラート用）  
1回に錠剤1錠お飲みください。（テノーミン用）

(3) 一回半錠で服用する薬剤が処方されている場合

一回半錠で服用する薬剤が処方されている場合、半錠は分包して調剤を行う。調剤例の場合、ラニラピッド錠及びチラーヂンS錠は各3.5錠分包する。

①スピロノラクトン錠 25mg	1錠
フロセミド錠 40mg	1錠
ラニラピッド錠	0.5錠
チラーヂンS錠	2.5錠
【朝食後すぐ】	7日分

<薬袋表現>

① 1回に錠剤各1錠お飲みください(2種類)。

(スピロノラクトン・テシックス用)

1回に錠剤半錠お飲みください。(ラニラピッド用)

1回に錠剤2錠と半錠お飲みください。(チラーヂン用)

(4) 服用時間によって用量が異なる(不均等調剤)場合

薬袋に薬剤を総数入れ、薬袋の記載事項を確認する。

① プレドニン錠 5mg	3錠
【朝昼食後すぐ】	14日分
【朝2錠 昼1錠】	

<薬袋表現>

① 1回に錠剤朝2錠、昼1錠お飲みください。

## 一包化調剤例

一包化調剤は、オーダ指示により服用時間毎（縦割り）もしくは処方毎（横割り）で行う。

また、散剤が同時に処方されている場合、服用時間毎（縦割り）調剤は別に薬袋を発行し、処方毎（横割り）調剤は同一薬袋調剤とする。

### (1) 服用時間毎（縦割り）一包化

処方内容		調剤内容		薬袋表現
①レバミピド錠	3錠	①レバミピド錠	1錠	①朝食後すぐ 7日分 1回におくすり1包お飲みください。
ペルサンチン錠	9錠	ペルサンチン錠	3錠	
ミヤBM細粒	3g	ファモチジンD錠	1錠	
【毎食後すぐ】	7日分	【朝食後すぐ】	7日分	
②ファモチジンD錠	2錠	②レバミピド錠	1錠	②昼食後すぐ 7日分 1回におくすり1包お飲みください。
【朝夕食後すぐ】	7日分	ペルサンチン錠	3錠	
		【昼食後すぐ】	7日分	③夕食後すぐ 7日分 1回におくすり1包お飲みください。
		③レバミピド錠	1錠	
		ペルサンチン錠	3錠	
		ファモチジンD錠	1錠	
		【夕食後すぐ】	7日分	④毎食後すぐ 7日分 1回に散薬1包お飲みください。
		④ミヤBM細粒	3g	
		【毎食後すぐ】	7日分	

### (2) 処方毎（横割り）一包化

処方内容		調剤内容		薬袋表現
①レバミピド錠	3錠	①レバミピド錠	3錠	①毎食後すぐ 7日分 1回におくすり1包お飲みください。 1回に散薬1包お飲みください。
ペルサンチン錠	9錠	ペルサンチン錠	9錠	
ミヤBM細粒	3g	ミヤBM細粒	3g	
【毎食後すぐ】	7日分	【毎食後すぐ】	7日分	②朝夕食後すぐ 7日分 1回におくすり1包お飲みください。
②ファモチジンD錠	2錠	②ファモチジンD錠	2錠	
【朝夕食後すぐ】	7日分	【朝夕食後すぐ】	7日分	

### (3) 配合変化

配合変化により一包化調剤が行えない錠剤を分包する場合は、別包対応にて調剤する。

オルメサルタン メドキシミル含有製剤	「一包化し高温多湿条件下にて保存した場合、変色することがあるので、一包化は避けること」と添付文書に記載のある薬剤
オルメサルタン OD 錠 10mg オルメサルタン OD 錠 20mg レザルタス配合錠HD	メトホルミン塩酸塩錠 250mgMT カモスタットメシル酸塩 100mg

# 散剤

## 基本的原則

(1) 基本的に散剤調剤における優先順位を下記のように定める。

- I) 処方中に分包品がある場合は、分包品を使用する（1回2包以上服用する場合を含む）。
- II) 分包品と秤量薬剤が同時に処方されている場合は、秤量薬剤のみ秤量分包する。
- III) 分包品の規格量と異なる処方がある場合は、分包品をバラして秤量分包する。

(2) 調剤単位

処方毎に調剤し、一回服用量・用法・投薬日数のいずれかが異なるものは薬袋を別に発行する。また、錠剤（カプセル剤を含む）と散剤で一回服用量・用法・投薬日数が同じ場合は、同一薬袋にすべての薬剤を入れる。

(3) 単独調剤

抗菌薬、タミフルドライシロップ3%、バラシクロビル顆粒、薬用炭の秤量調剤及び散剤分包品の調剤は、単独調剤を行い薬袋は別に発行する。また、同一処方の中に2種類以上の抗アレルギー剤が含まれる場合や、散剤の不均衡指示のある場合もそれぞれ単独調剤を行う。

(4) 賦形剤の取り扱い

散剤の秤取量が、下記に定める規定量以下の場合は賦形剤を加える。但し、抗菌剤及び顆粒剤の秤取散剤は賦形剤を加えない。また添加する賦形剤は原則として乳糖を使用し、処方箋に記載する。

	分2以上		分1もしくは頓服	
大人の場合	1.0g 未満/日	1日につき1.0g 添加	0.5g 未満/回	1回につき0.5g 添加
小人の場合	0.5g 未満/日	1日につき0.5g 添加	0.3g 未満/回	1日につき0.3g 添加

(5) 錠剤（カプセル剤）の粉砕

- I) オーダより錠剤（カプセル剤）の粉砕指示がある場合や錠剤（カプセル剤）を粉砕しなければ調剤できない場合は、錠剤（カプセル剤）を粉砕する。
- II) 特別な指示がない限り、カプセル剤の粉砕は脱カプセルに依るものとし、フィルムコーティング錠のフィルムコートは篩過し取り除く。
- III) 錠剤（カプセル剤）を粉砕して規定量に満たない場合は賦形剤を加える。
- IV) 薬剤の粉砕可否は、オーダ側の薬品マスターで制御する。
- V) 粉砕する薬剤は、品目と数量を2名以上で確認した後に粉砕する。また、粉砕した薬剤のPTPシートなどは鑑査が終了するまで残しておく。

(6) 錠剤（カプセル剤）の粉砕と他の散剤の混合について

処方毎において、錠剤（カプセル剤）の粉砕薬と他の散剤（散剤の分包品を除く）が同時に処方されている場合は、それぞれを混合して調剤する。

## 散剤調剤例

### (1) 散剤が一種類の場合

①ロキソプロフェン Na 細粒	1.8g
【毎食後すぐ】	7日分
②ロキソプロフェン Na 細粒	3.6g
【毎食後すぐ】	7日分
③ロキソプロフェン Na 細粒	2.7g
【毎食後すぐ】	7日分
④ミヤ BM 細粒	2.0g
【毎食後すぐ】	7日分

#### <薬袋表現及び調剤方法>

- ①1回に散薬1包お飲みください。(分包品 21包)
- ②1回に散薬2包お飲みください。(分包品 42包)
- ③1回に散薬1包お飲みください。(分包品バラ 18.9g)
- ④1回に散薬1包お飲みください。(秤量 14g)

### (2) 散剤が二種類以上の場合

①ロキソプロフェン Na 細粒	3.6g
ベリチーム配合顆粒	2.1g
【毎食後すぐ】	7日分
②ミヤ BM 細粒	1g
タンニン酸アルブミン	0.5g
【毎食後すぐ】	5日分
③セフカペンピボキシル塩酸	
塩小児用細粒	90mg
ミヤ BM 細粒	1g
【毎食後すぐ】	5日分
④PL 顆粒	3g
ミヤ BM 細粒	3g
アモキシシリンカプセル	3カプセル
【毎食後すぐ】	4日分

#### <薬袋表現及び調剤方法>

- ①1回に散薬2包お飲みください。  
(ロキソプロフェン Na 細粒用 分包品 42包)  
1回に散薬1包お飲みください。  
(ベリチーム配合顆粒用 分包品バラ 14.7g)
- ②1回に散薬1包お飲みください。  
(ミヤ BM 細粒 5g とタンニン酸アルブミン 2.5g を秤量し混合調剤)
- ③1回に散薬1包お飲みください。  
(セフカペンピボキシル用 秤量 4.5g)  
1回に散薬1包お飲みください。  
(ミヤ BM 細粒用 秤量 5g)
- ④1回に散薬各1包お飲みください(2種類)。  
1回にカプセル1個お飲みください。  
(分包品 12包[PL]・秤量 12g[ミヤ BM 細粒]と 12カプセル  
同一薬袋)

### (3) 錠剤(カプセル剤)を粉砕する場合

①グリチロン錠	3錠
【毎食後すぐ】	7日分
【粉砕:錠剤が飲めないため】	
②テノーミン錠 50	0.5錠
【朝食後すぐ】	7日分

#### <薬袋表現及び調剤方法>

- ①1回に散薬1包お飲みください。  
(21錠粉砕後分包。但し、粉砕重量が規定量に満たない場合は賦形剤を添加する。)
- ②1回に散薬1包お飲みください。  
(4錠粉砕後分包。調剤例の場合 8日分調剤し、1日分廃棄する。また、粉砕重量が規定量に満たない場合は賦形剤を添加する。)

# 水剤

## 基本的原則

### (1) 調剤単位

希釈調剤薬品は、処方毎に調剤し投薬瓶の服用目盛りを指示する。但し、希釈調剤薬品の単味処方では6日以上の場合は原液投与とする。原液投与薬品は単独調剤を行い、1回量を指示する（退院処方及び外来処方については計量カップなどを添付する）。

→水剤調剤マニュアル参照

### (2) ラベル及び薬袋発行

水剤のラベル及び薬袋の発行は下記のように定める。

	ラベル表記	発行枚数	発行区分
希釈調剤薬品	1回に印の目盛り お飲み下さい。	総日数/7日	外来処方※：薬袋 入院処方◆：ラベル
原液調剤薬品	1回に〇mL お飲み下さい。	用量/容器サイズ	

※外来処方は退院処方含む

◆入院処方は退院処方除く

### (3) 甘味料

甘味料は単シロップを使用する。

バンコマイシン甘水以外の甘水処方は、単シロップを希釈用量の10%となるように加える。

但し、処方内にシロップ剤が処方されている甘水処方は、甘味料を加えない。

### (4) 防腐剤

防腐剤は、4% *p*-ヒドロキシ安息香酸エチルを使用する。希釈調剤を6日以上行う場合、希釈用量の1%となるように防腐剤を加える。但し、小児科入院患者の場合、6日分投与については防腐剤を加えない。

### (5) 配合変化

配合変化などの理由により、単独調剤を行う必要性のある水剤は、別瓶を用いて調剤する。

別瓶にする水剤	
サリパラ液	ビソルボン syr 但し、咳杏甘水+ビソルボン syr の場合は、ビソルボン syr を別瓶にする。

## 投薬瓶の選択方法

### (1) 小児の場合

原則として「1日の水量×投薬日数」を基準として下記のように定める。但し、水量の記載がない場合は、1回10mLとする。薬剤の用量のみで投薬瓶の設定を超える場合は、一つ大きい投薬瓶を選択する。

分3の場合											
	1日水 9mL 以下		1日水 30mL		1日水 15mL		1日水 20mL		1日水 60mL		
	大きさ		大きさ		大きさ		大きさ		大きさ		
1日分	30	3日分の1日目	30	2日分の2目盛	30	15mL	30	20mL	60	2日分の2目盛	
2日分	30	3日分の2日目	60	瓶の肩の2に○	30	瓶の肩の2に○	30	瓶の肩の2に○	100	瓶の肩の2に○	
3日分	30	瓶の肩の3に○	100	瓶の肩の3に○	60	瓶の肩の3に○	60	瓶の肩の3に○	200	瓶の肩の3に○	
4日分	60	瓶の肩の4に○	100	瓶の肩の4に○	60	瓶の肩の4に○	100	瓶の肩の4に○	200	瓶の肩の4に○	
5日分	60	瓶の肩の5に○	200	瓶の肩の5に○	100	瓶の肩の5に○	100	瓶の肩の5に○	300	瓶の肩の5に○	
6日分	60	7日分の6日目	200	7日分の6日目	100	7日分の6日目	100	7日分の6日目	300	瓶の肩の6に○	
7日分	60	瓶の肩の7に○	200	瓶の肩の7に○	100	瓶の肩の7に○	100	瓶の肩の7に○	300	瓶の肩の7に○	

	分2の場合		分4の場合		頓服の場合
	1日水 20mL		1日水 40mL		1日水 10mL
	大きさ		大きさ		
1日分	30	20mL まで	60	40mL まで	希釈して1回10mL
2日分	60	40mL まで	100	80mL まで	◆6回分以上は原液投与 ◆頓用で医師が1回分の 水量をオーダーしている場 合は、それに準じる。
3日分	60	瓶の肩の2に○	100	瓶の肩の4に○	
4日分	100	80mL まで	200	160mL まで	
5日分	100	10mL 目盛り	200	10mL 目盛り	
6日分	100	瓶の肩の4に○	300	240mL まで	
7日分	200	140mL まで	300	280mL まで	

### (2) 大人の場合

原則として「1日の水 100mL×投薬日数」を基準として下記のように定める。

(外来の場合)

	分3の場合		分4の場合	
	大きさ		大きさ	
1日分	100	2日分の2目盛	100	8目盛の2目盛ずつ
2日分	200	瓶の肩の2に○	200	8目盛
3日分	300	瓶の肩の3に○	300	瓶の肩の4に○
4日分	300	瓶の肩の4に○	300	16目盛
5日分	500	瓶の肩の5に○	500	30目盛の20目盛まで
6日分	500	7日分の6日目	500	30目盛の24目盛まで
7日分	500	瓶の肩の7に○	500	30目盛の28目盛まで
14日分	500	瓶の肩の14に○	500	

(入院の場合)

	分2の場合		分3の場合		分4の場合		頓服の場合
	大きさ		大きさ		大きさ		
1日分	300	4日分の2目盛	300	4日分の1日目	300	16目盛の4目盛	希釈して1回30mL
2日分	300	4日分の4目盛	300	4日分の2日目	300	16目盛の8目盛	◆6回分以上は原液投与
3日分	300	4日分の6目盛	300	4日分の3日目	300	16目盛の12目盛	◆頓服用で医師が1回分の水量
4日分	300	4日分の8目盛	300	瓶の肩の4に○	300	瓶の肩の1に○	をオーダーしている場合は、
5日分	300	4日分の10目盛	500	7日分の5日目	500	30目盛の20目盛	それに準じる。
6日分	300	瓶の肩の4に○	500	7日分の6日目	500	30目盛の24目盛	
7日分			500	瓶の肩の7に○	500	30目盛の28目盛	

## 水剤調剤例

### 小児の調剤例

#### (1) 用法が一日三回の希釈調剤の場合

①セネガ syr	2mL
カルボシステイン syr	4mL
ペリアクチン syr	2mL
アスベリン syr	2mL
【毎食後すぐ】	3日分
【水 15mL】	

#### <薬袋表現と調剤方法>

- ①1回に印の目盛りお飲み下さい。  
 (投薬瓶 60mL を選択し、投薬瓶の肩まで水で希釈調剤する。投薬瓶の3を○で囲む。)

#### (2) 用法が一日二回の希釈調剤の場合

②セネガ syr	2mL
カルボシステイン syr	4mL
ペリアクチン syr	2mL
アスベリン syr	2mL
【朝夕食後すぐ】	5日分
【水 20mL】	

#### <薬袋表現と調剤方法>

- ②1回に印の目盛りお飲み下さい。  
 (投薬瓶 100mL を選択し、投薬瓶の肩まで水で希釈調剤する。投薬指示は、10mL 目盛りを使用する。)

#### (3) 用法が頓服用で希釈調剤の場合

③ペリアクチン syr	2mL
【頓用 掻痒時】	5回分
【水 10mL】	

#### <薬袋表現と調剤方法>

- ③1回に印の目盛りお飲み下さい。  
 (投薬瓶 60mL を選択し、50mL まで水で希釈調剤する。投薬指示は、10mL 目盛りを使用する。)

#### (4) 用法が頓服用で原液調剤の場合

④ペリアクチン syr	2mL
【頓用 掻痒時】	6回分
【水 10mL】	

#### <薬袋表現と調剤方法>

- ④1回に2mLお飲み下さい。  
 (投薬瓶 30mL を選択し、ペリアクチン syr12mL 原液調剤する。)

## 大人の調剤例

### (1) 外来処方

①キョウニン水	5mL
サリパラ液	10mL
単シロップ	10mL
【毎食後2時間半】	5日分

#### <薬袋表現と調剤方法>

①1回に印の目盛りお飲み下さい。

(投薬瓶 500mL を選択し、投薬瓶の肩まで水で希釈調剤する。投薬瓶の5を○で囲む。)

### (2) 入院処方

②キョウニン水	5mL
サリパラ液	10mL
単シロップ	10mL
【毎食後2時間半】	5日分

#### <薬袋表現と調剤方法>

②1回に印の目盛りお飲み下さい。

(投薬瓶 500mL を選択し、7日分の5日目まで水で希釈調剤する。7日分の5日目に服用指示を入れる。)

## その他特殊な水剤の調剤

### (1) バンコマイシン甘水

①塩酸バンコマイシン散	2g
注射用水	20mL
単シロップ	20mL
【毎食後すぐと眠前】	4日分

- \* 塩酸バンコマイシン散（内服用 0.5g/V）を注射用水で希釈調剤する。
- \* 調剤例の場合、塩酸バンコマイシン散（内服用 0.5g/V）16V を注射用水で溶解する。
- \* 単シロップは、注射用水と等量加えて調剤する。調剤例の場合、注射用水 80mL 及び単シロップ 80mL を使用する（1回 10mL 服用指示）。
- \* 防腐剤は不要（14日間安定）
- \* 冷所保存

### (2) 硫酸アトロピン水

②アトロピン硫酸塩注《0.5mg/1mL》[内服用]	1.8mL
【分6】	5日分
【水6mL】	

- \* アトロピン硫酸塩注を使用する。
- \* 矯味の為、全量の10%の単シロップを加え全量とする。
- \* 調剤ラベルには1回は印の通りと印字されるので、服用指示を「1回 1mL」と書き換えること。
- \* 調剤例の場合、アトロピン硫酸塩注《0.5mg/1mL》4A（4mL）を使用し、全量 30mL・1回 1mL 服用指示をする。
- \* 水の用量は、処方箋に記載された用量で調剤する。

### (3) でい咳杏甘水

③キョウニン水	5mL
サリパラ液	10mL
単シロップ	10mL
コデインリン酸塩散 1%	5g
【毎食後2時間半】	5日分

- \* 同一処方内に散剤と水剤がある場合、基本的に個々に調剤を行うが、薬品マスターの溶散薬フラグの指定を受けた薬剤については、散剤を水剤に溶かし込む。
- \* 調剤例の場合、5日分の咳杏甘水にコデインリン酸塩散 1% 25g を溶解させる。

### (4) 消化管造影剤

④ガストログラフィン	60mL
【検査時持参】	

- \* 製剤開封後の安定性のため、製剤規格量を調剤単位とする（分割調剤は行わない）。
- \* 調剤例の場合、ガストログラフィン 100mL を払い出し、ラベルに 40mL 廃棄の旨を指示する。

(5) アヘンチンキ (麻薬)

⑤ (局) アヘンチンキ	1.5mL
【毎食後すぐ】	5日分

- \* 1回量が10mLとなるように調製する。
- \* アヘンチンキは麻薬であるので最後に加えること。
- \* 調剤ラベルには1回は印の通りと印字されるので、服用指示を「1回10mL」と書き換えること。

(6) アラグリオ内用剤 1.5g

アラグリオ内用剤 1.5g	960mg 含
膀胱鏡挿入3時間前(範囲:2~4時間前)に、水に溶解して経口投与	
【飲み薬 1日1回 12時】	1日分

- \* カルテ記載の入院時体重より処方量が20mg/kgとなっていることを確認する。
- \* 手術時間確認し、服用時間が膀胱鏡挿入3時間前(範囲:2~4時間前)となっていることを確認する。
- \* アラグリオ内容剤 1バイアルに水50mLを加えて溶解する。(要ダブルチェック)
- \* 20mg/kgから計算した投与液量を水薬瓶にはかり取る。(要ダブルチェック)
- \* 薬袋の指示内容を「1回に ●●mL お飲みください」へ修正すること。

→投与液量は適正使用ガイド中「投与液量計算表」を参照

(7) レスピア静注・経口液

レスピア経口液《60mg/3mL》	0.5mL
【飲み薬 1日1回 朝食後】	7日分

- \* バイアル製剤であり、製品のまま単独調剤とし、1回に必要な本数の投与回数分で調剤する。

# 外用剤

## 基本的原則

### (1) 調剤単位

調剤方法は、原則として薬剤毎に行う。このため薬剤毎に薬袋もしくはラベルを発行する。

### (2) 混合調剤

オーダより混合指示がある場合（軟膏剤の混合など）は、混合調剤を行う。また、薬袋は一つに取りまとめる。

### (3) 優先剤形

処方に包装規格品が存在する場合、包装規格品を用いて調剤する。

また、軟膏剤やクリーム剤の調剤において、秤量調剤する場合は電子天秤で用量を分取する。

なお、容器は秤量量に最も近似したサイズを選択する。

調剤後は、軟膏瓶の蓋に秤量または混合した軟膏・クリーム剤の名称を記載したラベルシールを貼付する。

### (4) 外用液剤

外用液剤は包装規格品の規格量で調剤可能な場合を除き、水剤調剤に使用する投薬瓶を用いて調剤する。

また、投薬瓶の蓋は内服液剤との識別のために赤色キャップを使用する。

### (5) 調剤添付物

外用薬の使用説明書などは、すべての処方箋区分で調剤時に添付することを原則とする。

ただし、グリセリン浣腸液・インスリン製剤については、入院処方には添付しない。

→薬剤使用説明書リスト参照

## 外用調剤例

①レボフロキサシン点眼液	2本	フルオメソロン点眼液 0.1%	2本	【両目 1日3回 1回1滴】	①目薬 1日3回 1回1滴 両目 (薬袋が2枚発行される。)
②マイザー軟膏	10g				
白色ワセリン	10g	【混合】	②ぬり薬 1日2回 発疹部位 (薬袋が1枚発行される。)		
③ロキソプロフェンNa パップ	3袋	【1日2回 発疹部位】	③貼布剤 1日2回 (ラベルが1枚発行される。)		
④院方ルゴール	30mL	【1日2回】	④製剤 1日2回 (ラベルが1枚発行される。)		

## その他特殊な外用剤の調剤

### (1) パー含嗽

②滅菌精製水	475mL
オキシドール	25mL
【1日2回】	

\*滅菌精製水にオキシドールを指示量加えて調剤する。

### (2) AZ 含嗽用配合細粒+キシロカイン液 4%

③AZ 含嗽用配合細粒	15包
キシロカイン液 4%	30mL
滅菌精製水	1500mL
【1日数回】	

\*500mL を製剤単位として、4日分を限度として調剤する。

\*調剤例の場合、滅菌精製水 500mL に AZ 含嗽用配合細粒 5包を加えて溶解し、キシロカイン液 4%10mL を添加する。

### (3) 十塩吸

④炭酸水素ナトリウム	35g
塩化ナトリウム	35g
【1日2回】	

\*1包あたり炭酸水素ナトリウム 1.25g+塩化ナトリウム 1.25g を製剤単位とする。

\*調剤例の場合、炭酸水素ナトリウム及び塩化ナトリウムを各 35g 秤量混和し、28包に分包調剤する。  
予製剤として作成しており、分包紙には下記の通り印字される。

●炭酸水素ナトリウム 1.25g
●塩化ナトリウム 1.25g
医師の指示通り
(吸入用)